

今回は「イスラム教のラマダン」についてお話しします。

ラマダンとは

イスラム教の教えとしてイスラム教徒の義務として定められる「五柱」の1つに「ラマダン」があります。日本では「断食」と言ったほうが分かりやすいかもしれません。ラマダンとは一年の中で太陰暦の中の9番目にあたる月を指します。その一ヶ月を神聖な月とし、日の出から日没まで、飲食や喫煙などをしてはならないとしています。今年は8月1日からラマダンが始まりました。というのもラマダンの開始は今でも伝統的な手法で月の観測をして、新月であることが確認され、宗教省によって開始が宣言されます。今年は次の新月になる8月の終わり頃まで続きます。

神聖な月「ラマダン月」

他教徒が断食の話を知ると、なんでそのような苦行のようなことをするのだろうと思います。実際にイスラム教徒の人々にとってラマダンとはどのような月なのか、ドーハ日本人学校に講師として勤務するシリア出身の敬虔なイスラム教徒であるハザール・フーリ先生にインタビューしてみました。



(Q: ラマダンをいつから始めましたか。)

私は13歳のころからです。だいたい9歳くらいから15歳くらいまでに皆が始めます。

(Q: ハザール先生にとってラマダン月とはどのような月ですか。)

すごく楽しい月です。ラマダンがくるのが待ち遠しいです。1ヶ月前から楽しみにしていました。ラマダン中は夜のご飯の時間が特に楽しいです。

(Q: 断食をすることは辛くないですか。)

辛いとは思いません。やりたくないというのはイスラム教徒ではないです。ラマダンを通して貧しい人の気持ちを考えることも大切です。

ラマダンの月を「楽しい」と表現されるあたりが私にとっては少々理解しがたいことに感じられました。

少々不便なラマダン

ラマダンが始まり、ある週末に食料品の買い出しのために午前中(8:30)にショッピングモールへ行きました。すると見事に店という店の全てが閉まっていた。ラマダン中なので飲食店はもちろん、服やアクセサリを販売する店も。そして大手スーパーのカルフルさえも閉まっていた。幸いスーパーは9時に開店しました。10時くらいに他の店も開店しましたが、また午後2時になるとシャッターを閉めて閉店してしまいました。次はいつ開くのかと尋ねると「7時過ぎだ。」との返答でした。イスラム教徒ではない人々にとっては少々不便を感じてしまうのが本音のラマダン月です。



ラマダン中のため閑散とするショッピングモール。



食事ができる喫茶店や飲食店は日没まで開きません。



大手スーパーのカルフルも開店時間が限られます。とても不便です。



モールの入り口にはラマダンを祝う「Ramadann Kareem」の文字。



ラマダン中はめでたいため(?)か、多くの店がセールを行います。



日没後のレストランはライトアップされ大賑わいとなります。